報告事項1

令和4年度地域包括支援センター事業実績

（1）運営協議会について

令和4年6月　書面総会実施

（主な内容）令和3年度事業実績、決算について

令和4年度事業計画、予算について

（2）介護予防ケアマネジメントについて

◎予防給付（小平町介護予防支援事業所）による介護予防支援（ケアプラン）業務

	R4	R3	R2	R1
他への委託の件数*	0	0	0	0
包括実施の件数	78	131	129	136
合計	78	131	129	136

◎総合事業による介護予防支援ケアマネジメント（ケアプラン）業務　（H29.4より）

	R4	R3	R2	R1
他への委託等の件数*	0	0	10	12
包括実施の件数	274	282	247	177
合計	274	282	257	189

*住所地特例（千歳市の施設入居）のためのケアマネジメント負担金調整ケース

◎介護予防サービス・総合事業利用者

	合計		訪問型サービス	通所型サービス	通所リハビリ	訪問リハビリ	訪問看護	短期入所生活介護	福祉用具貸与
	実人数	延べ人数							
令和4年度	45	399	52	263	0	5	10	0	69

◎介護報酬（令和4年度）

総　額	344,640	延人数	78

＊新規利用者～1名

（3）総合相談支援事業

本人・家族からの相談	相談手段	電話相談	244 件
		来所相談	85 件
		訪問相談	377 件
		夜間・休日相談（再掲）	0 件
		計	706 件
	介護相談	介護制度、サービスに関すること	168 件
		介護施設入所に関すること	34 件
		ケアマネジメントに関すること（介護予防・生活支援サービスに関すること）	172 件
	医療相談	在宅医療に関すること	1 件
		医療制度に関すること	12 件
		退院支援に関すること	3 件
		入院に関すること	5 件
		受診に関すること	7 件
		治療・疾患に関すること	112 件
		精神的な問題に関すること	30 件
	認知症に関すること		50 回
	権利擁護に関すること		0 回
	介護者の離職防止に関すること		1 名
	その他の相談		165 回

（4）高齢者実態把握調査

令和4年度 高齢者実態調査実施人数	179名

（5）軽度生活支援事業

軽度生活支援事業（延人数）	0名	利　用　者（月　平　均）	
軽度生活支援事業（回　数）		軽度生活支援事業（時　間）	

（6）関係機関と連携による見守り状況について

地域における協力に関する協定　平成28年12月29日　日本郵便
地域見守り活動に関する協定書　平成29年2月29日　旭川地方道新会深川留萌地区会
平成29年　3月28日　セブンイレブンジャパン
平成29年12月25日　生活協同組合コープさっぽろ

（7）介護予防・生活支援サービス事業

a）訪問型・通所型サービス（従来のホームヘルプ・デイサービス）

	実数	延人数
訪問型ｻｰﾋﾞｽ	7	52
通所型ｻｰﾋﾞｽ	33	263
合計	40	315

b）通所型サービスC （からだ元気アップ教室）

参加者	17名	回　数	24回	延人数	324名

c）生活支援サービス（町家庭奉仕員による安否確認・見守り）

町の家庭奉仕員による独居・後期高齢世帯を中心とした安否確認、見守りを行い、必要時は専門的な判断のもとに、助言、関係機関に連絡等を行う。

安否確認（人　数）	184名	訪問確認（延回数）	3,572回

（8）一般介護予防事業

a）高齢者介護予防学習事業

◎老人クラブの例会に訪問し、血圧測定や健康・介護予防についての講話等を実施。

小平長寿会～4回　延べ50名	臼谷宝寿会～解散
本郷鶴亀会～2回　延べ28名	寧楽寿鶴会～1回　延べ10名
大椴恵比寿会～解散	鬼鹿福寿会～1回　延べ4名

講話内容～新型コロナウイルスワクチンの予防接種について、熱中症、秋・冬の健康管理、食事で風邪予防、マスクの着用の判断について、体操

b）地域介護予防活動支援～住民組織活動支援＜群来の会＞鬼鹿地区

	日時	内容	参加者
1	R4年 5月27日	温泉交流会（ゆったりかん）	新型コロナ感染予防対策により中止
2	R4年 7月28日	温泉交流会（ゆったりかん）	新型コロナ感染予防対策により中止
3	R4年 9月30日	温泉交流会（ゆったりかん）	新型コロナ感染予防対策により中止
4	R4年 11月11日	温泉交流会（ゆったりかん）	新型コロナ感染予防対策により中止
5	R4年 12月19日	温泉交流会（ゆったりかん）	新型コロナ感染予防対策により中止
6	R5年 1月27日	温泉交流新年会（ゆったりかん）	新型コロナ感染予防対策により中止

c）高齢者筋力トレーニング事業（げんきアップ体操教室）

年　度	地　区	参加者（実人数）	回数	延人数
令和4年度	小平地区	27名	30回 （各地区10回）	151名
	鬼鹿地区	11名		54名
	寧楽地区	12名		57名

d）脳の健康教室

年　度	地　区	参加者（実人数）	回数	延人数
令和4年度	小平地区	10名	32回 （各地区16回）	151名
	鬼鹿地区	5名		77名

（9）任意事業　　認知症サポーター養成講座

講座を受講することで、誰しもが認知症の人や家族を見守る応援者であることを学んでもらう。受講者にはオレンジリングを配布。

開催日時	場所	対　象	参加者
令和4年11月24日	ゆったりかん	小平町身体障害者福祉協会	14
令和4年12月9日	健康福祉センター	小平町民生委員協議会	12
計			33名

（10）在宅医療・介護連携推進事業

在宅医療推進、介護との連携推進、地域への普及啓発を目的として、南留萌地域で広域的に協議を行っている。事務局は留萌保健所。

a）留萌保健医療福祉圏域連携推進会議 「在宅医療・ケア専門部会」

日時・場所	令和4年12月22日・令和5年2月15日　※Zoom開催
出席者	留萌医師会、留萌歯科医師会、薬剤師会留萌支部、看護協会留萌支部、栄養士会留萌支部、理学療法士会道北支部　各代表等/訪問看護ステーション、ケアマネージャー連絡協議会、留萌市立病院医療連携室、セントラルクリニック医療相談室、居宅介護支援事業所季実の杜、留萌市・増毛町・小平町包括
事務局	留萌保健所・振興局
内容	遠別町におけるACPの取組について、南留萌地域における看取り支援の現状、管内における看取り支援推進に向けた方向性について 留萌管内、支援現場におけるポリファーマシーの現状と課題 留萌管内における服薬管理支援について　留萌管内の高齢者の食べること支援について

b）留萌保健医療福祉圏域連携推進会議 「在宅医療・ケア専門部会」 連絡調整委員会

日時・場所	令和4年9月21日・12月26日・令和5年1月16日　※Zoom開催
出席者	留萌市立病院医療連携室、居宅介護支援事業所季実の杜、留萌市・増毛町・小平町包括
事務局	留萌保健所
内容	入退院時連携シート作成の取組について、遠別町におけるACPの取組について、意見交換、研修企画、服薬支援についてのアンケート調査について、意見交換

c）介護と医療の連携研修会

日時・場所	令和5年3月17日　※Zoom開催
参加者	留萌圏域の保健医療福祉関係者　138名
主催	留萌保健所、留萌保健医療福祉圏域連携推進会議在宅医療・ケア専門部会、留萌市、増毛町、小平町
テーマ	高齢者の服薬支援と多職種連携
内容	・留萌管内における高齢者の服薬支援の現状～高齢者の服薬支援に関するアンケート結果 ・講義　高齢者の服薬問題と服薬支援について～より良い服薬治療のために ・実践報告　服薬支援の実際について　入所施設、居宅介護支援事業所の立場から

d）留萌管内医療介護福祉事業所一覧（留萌管内全域対象）運用

内容	a)b）にて留萌管内の医療・介護・福祉事業所一覧を作成、周知、運用

e）医療と介護の連携のための「入退院時連携シート」（留萌管内全域対象）運用

内容	a)b)にて、切れ目のない医療・介護サービス提供のための入退院時の連絡ツールを作成し、検証、運用している

（11）生活支援体制整備事業

生活支援コーディネーターの配置や協議体の設置により、担い手やサービスの開発を行い、高齢者の社会参加及び生活支援・介護予防の充実を促進する。

開催日時	参加者	内容等
※コロナウイルス感染症予防対応のため中止	各ボランティア代表者（井戸端サロン・サロンあじさい・虹の会）生活支援コーディネーター	研修会参加、連絡会等

(12)認知症総合支援事業

認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、認知症初期集中支援チーム員会議や認知症地域支援推進員の配置、地域の活動により支援体制を構築、推進する。

a)認知症初期集中支援チーム員会議の開催

開催日時	出席者	報告 情報交換	検討
令和4年4月28日	支援チーム(小平診療所医師・包括2)・萌ケアマネ/ウェブ会議	7	
令和4年5月26日	支援チーム(小平診療所医師・包括2)・萌ケアマネ/ウェブ会議	10	
令和4年6月23日	支援チーム(小平診療所医師・包括2)・萌ケアマネ/ウェブ会議	6	
令和4年7月28日	支援チーム(小平診療所医師・包括2)/ウェブ会議	9	1
令和4年8月25日	支援チーム(小平診療所医師・包括1)・萌ケアマネ/ウェブ会議	7	1
令和4年9月22日	支援チーム(小平診療所医師・包括2)・萌ケアマネ/ウェブ会議	8	
令和4年10月27日	支援チーム(小平診療所医師・包括2)・萌ケアマネ/ウェブ会議	7	
令和4年11月24日	支援チーム(小平診療所医師・包括2)/ウェブ会議	7	
令和4年12月22日	支援チーム(小平診療所医師・包括2)・萌ケアマネ/ウェブ会議	10	
令和5年1月26日	支援チーム(小平診療所医師・包括2)・萌ケアマネ/ウェブ会議	6	
令和5年2月16日	支援チーム(小平診療所医師・包括2)・居宅小平・萌ケアマネ/ウェブ会	6	1
令和5年3月23日	支援チーム(小平診療所医師・包括2)・萌ケアマネ/ウェブ会議	5	
延べ数		88	3
実数		22	2

◎認知症初期集中支援チーム　計3名　認知症サポート医　小平診療所医師

認知症初期集中支援チーム員　包括　主任ケアマネ・保健師

◎認知症地域支援推進員　　健康づくり係　係長(保健師)

◎随時介護支援専門員等専門職が参加　介護相談センター萌るもい　/　小平町居宅

◎新型コロナ感染症対策のため、診療所と役場に分かれてのウェブ開催となった。

b)会議での検討事項

c)地域の課題等　前年度以前からの継続課題

認知症のため内服管理ができなくなっていても、家族に内服を促されたり薬を管理されることを嫌がり、怒ってしまうことがあり対応が難しい。また、独居や高齢者のみの世帯では、本来内服の都度の確認が必要だが、短時間で頻回に利用できるサービスが近隣にはないため、正しく内服できていないことも多い。
認知症の初期のうちに受診や対応をすることで、回復の可能性が高くなり、進行を遅くできることがあるが、初期は特に本人、家族も隠す傾向があり、支援の開始が難しい。早めに対応できるよう、令和2年度から、総合健診にてMCI(軽度認知障害)について一般へ情報を配布。初期にできる対応を強化したい。

(13)地域ケア会議の推進

個別ケースの支援内容等の検討を通じて、高齢者の実態把握や課題解決のためのネットワーク構築、個別ケースの課題分析を行うことによる地域課題の把握を行う。

a)地域ケア会議の開催

開催日時	出席者	報告 情報交換	検討
令和4年4月4日	家庭奉仕員3・包括2・デイ・萌居宅	25	1
令和4年5月11日	家庭奉仕員3・包括2・町居宅・保険係・萌居宅	17	
令和4年6月8日	家庭奉仕員3・包括2・町居宅・愛生園・保険係・福祉係・萌居宅・デイ	29	
令和4年7月4日	家庭奉仕員2・包括2・愛生園	9	
令和4年8月1日	家庭奉仕員3・包括2	16	
令和4年9月5日	家庭奉仕員3・包括3・愛生園	14	
令和4年10月3日	家庭奉仕員3・包括2・町居宅・萌居宅・愛生園・萌居宅・デイ	15	
令和4年11月7日	家庭奉仕員3・包括2	18	1
令和4年12月5日	家庭奉仕員3・包括2・町居宅・萌居宅	23	
令和5年1月11日	家庭奉仕員3・包括2・町居宅・萌居宅	11	
令和5年2月6日	家庭奉仕員3・包括2・町居宅・愛生園・萌居宅	13	
令和5年3月6日	家庭奉仕員3・包括2・町居宅・愛生園・萌居宅・デイ	18	1

◎臼谷地区民生委員・家庭奉仕員・包括打合せ

開催日時	出席者	報告 情報交換	検討
令和4年4月19日	民生委員・家庭奉仕員2・包括1	11	
令和4年7月13日	民生委員・家庭奉仕員2・包括1	5	
令和4年10月12日	民生委員・家庭奉仕員2・包括1	7	
令和5年2月8日	民生委員・家庭奉仕員2・包括1	11	

延べ数	16回開催	242	3

b)会議での検討事項

c)地域の課題等

後期高齢者の割合が増加しており、認知症の症状が出てきた方を周囲が理解、支援すること、社会活動の結び付けが求められている。 認知症があり身寄りのない方の、成年後見制度利用などの必要性が出てきている。
独居や介護のストレスがあるなどの複数の方から、胃腸、頭痛、不眠など多様な症状の頻回の訴えがある。受診の回数も多くなる傾向で、気分が落ち込みがちだったり、家族や周囲が対応に振り回されることもある。独居の方の突然死が発生した際に、地域のほかの独居の方の、体調や入浴時の不安の訴えが増える傾向がある。

前年度以前からの継続課題

ニーズに対して訪問介護サービス（ホームヘルプサービス）が不足しており、希望しても半年～1年待ちになることがある。ヘルパー事業所は留萌、苫前にあり、臼谷、小平、鬼鹿以外の内陸の地区の利用が特に難しい傾向がある。留萌管内で市町村内に訪問介護（ホームヘルパー）事業所がないのは小平町のみ。　**介護サービスの不足**
＜留萌までの通院の困難＞訪問介護サービス（ホームヘルプサービス）が不足しているため、要介護1以上が対象である通院介助（特に週3回の透析治療の通院）もまた、すぐに利用できないことが多い。また、要介護1以上に該当しない軽度の方でも、通院の足の不安の訴えは多い。 ＜鬼鹿地区内の移動＞　タクシーの廃止などにより地区内の移動が困難。現在「群来丸」で対応している。　**高齢者の足の問題**
・施設に入るほど体が不自由ではないが、体調悪化時や通院など一人で自宅で暮らすには不安で施設を申し込んでいる　・内陸の地区で暮らしているが、買い物、通院が難しくなってきた　・家が老朽化して住めないので施設に入る　・足が悪いのに2階や段差の多い公住に入居、もう暮らせなくなってきた　**高齢者の住まいとマッチングの問題**
・高齢になってもマイペースで働きたい　・自然発生的に、知人の家事を手伝う人もいる **高齢者のやりがいとニーズのマッチング**